

「あまみエフエム ディ！ウェイヴ」放送原稿〈7月11日（金）放送分〉

テーマ「奄美の民話や昔話」

あまみエフエム ディ！ウェイヴをお聞きの皆様、おはようございます。鹿児島県立奄美図書館です。今日は、毎月第2金曜日にお届けする、「奄美の民話や昔話」シリーズの第4回、徳之島町の昔話「水の神の運」です。

昔、年を取った夫婦に初めての子が生まれました。生まれた子は男の子だったので、夫婦は自分たちが年をとったときに世話をしてくれるだろうと思い、大変喜んでいました。

さて、子どもが生まれて七日後のことなのかこです。夫は冬の山へキノコを採りに出かけました。しかしあまりにも寒かったので、夫は木の下にうずくまっていたところ、そのうちにまどろんでしまいました。

やがて夢のような、現実のような不思議な感覚の中、二人の神様が出てきました。その一人が「ちょうど七日前に村で子どもが生まれたが、それは男の子だった。私はその子に運命を定めてきた。」と言いました。すると、もう一人が「それはどんな運命なのか。」と尋ねました。最初の神様が「気の毒だが、男の子は七歳の七月七日に、かつば河童に川へ引き込まれて死んでしまうという運命を定めてきた。」と答えると、もう一人は「私は男の子が九十歳まで生きるという運命を定めたのだが…。」と言いました。二人の神様は仲が良かったので、最初の神様は「それなら、その子が七歳のときに死ななかつたら、九十歳まで生きるという運命に決めよう。」と言いました。

しばらくして夫は目覚め、果たしてさっきの会話は夢だったのかなあと思っていました。村で生まれたのは自分の子どもしかいないので、これは自分の子どものことに違いないと思い、「このことは誰にも言ってはいけない。」と心に決めて、自分の妻にもこのことは言わずに子どもを育てました。

月日は流れ、とうとう男の子の七歳の七月七日おのがきました。いつもは子どもの言うことを何でも聞いてあげる夫が、今日は斧を研いで子どもの枕元に座ったまま動きませんでした。妻は驚いて、「どうしてそんなことをするの。」と尋ねると、夫は「今日は子どもをどこにも遊びに行かせない、この子は家から一歩も出させない。」と答えました。子どもは遊びたくて「外に出して。」と泣きました。夫は子どもの足を縄でくくり、柱に巻きつけたので、妻は我慢できずに「何もそこまでしなくても。」と言いましたが、夫が「その縄に手をつけたら、お前を切り殺すぞ。」とまで言うので、妻は手を出せませんでした。

しばらくして、近くの子どもたちが「川へ水浴びに行こう、遊びに行こう。」と家に男の子を呼びに来ると、夫は「お前、早く子どもたちを追い払え。」と妻に言って男の子を呼び出さないようにしました。

やがて日も暮れる頃、今度は遠くの村に住んでいる夫の妹が来て、「どうしたの、お兄さん、そんな馬鹿なことをして。子どもをいじめないで、早く遊びに行かせてあげなさいよ。」と言いましたが、夫は「いや誰が何と言っても、今日は遊びには行かせない。家から一步も外に出させない。」と答えました。それでも夫の妹はしつこく言ってきましたが、夫は「それでも、外へは出してやらない。」と言いました。妹は、「そんなことばかり言ったってどうするの。それなら、私が縄をほどいてあげるからね、かわいそうな子…」と言って男の子の縄をほどこうとするので、夫は「もし縄をほどいたら、お前を切り殺してやるぞ。」と斧を振り上げて構えました。すると妹は「まあ恐ろしいこと、どうしてそんなにまでするの。」と言いました。

しばらくはそのままでしたが、夫の妹はやっぱ男の子の縄をほどこうとするので、夫は「縄をほどいてはいけない。」と、どうしても許しませんでした。とうとう夫の妹は我慢できなくなって、「お兄さんが何と言おうと、子どもを遊びに行かせてあげるから。」と言って、男の子の足をくくってあった縄をほどき始めました。すると男の子も妻もととても喜びました。

夫は怒って本当に自分の妹に斧を投げつけたところ、斧が当たって妹の手が切れ、妹はそのまま逃げていってしまいました。夫がその切れてしまった妹の手を見ると、その手先には人間のものとは思えない程、大きく長い爪が生えていました。実は鬼が夫の妹に化けて、男の子の命を奪^{うば}いにきていたのです。夫は「ほら、この手を見ろ。あれは妹ではなく鬼だったのだ。」「鬼が自分たちの子どもの命を奪^{うば}いに来ていたのだ。」と言いました。さらに夫は「明日の朝までは、この子をどこへも出すことはできない。その後は、どこへでも出していいから。」と言って、男の子を外に出さないようにしました。

その後、男の子はどこに遊びに行っても^{おほ}溺れもせず^{けが}怪我もせず、長生きをして、その村では初めての八十八歳のお祝いもして、九十歳まで生きたということです。

さて今回のお話はいかがでしたか。鬼がいろいろな人間に変身するという話は、昔話ではよく出てきますね。それにしても、我が子の命を守るためとはいえ、本当に自分の妹に斧を投げつけるのは、さぞかし勇気が必要だったことでしょう。結果的に鬼から子どもの命を守ることができましたが、自分だったらそこまでできるのだろうかと考えてしまいますね。

このように奄美図書館には、郷土に伝わる昔話を紹介した本がたくさんあります。ぜひ図書館にいらして、いろいろな本を手にとってほしいと思います。職員一同、皆様のご来館を心よりお待ちしております。以上、鹿児島県立奄美図書館でした。